55, p. 107(1935)

植 村 利 夫 アカサビザトウムシの食性 紀州動植物 vol. ii, no. 2, pp. 19—21(1935)

Uyemura, T.- On a spider, Caelotes exitiala, from Mt. Ohyama, Kanagawaken, Japan.

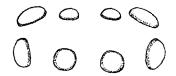
神奈川縣大山にヤチグモを産す

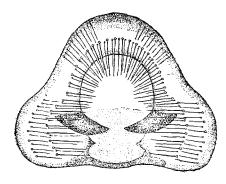
植 村 利 夫

東京市瀧野川區西ヶ原町三一〇

[昭和十一年五月六日受領]

昭和11年4月30日、予は神奈川縣大山の頂上にて2頭のヤチグモ Caelotes exitialis L. Koch 1877を採集し得たことを此所に報告する。當日は不幸にして天候惡しく、豫期の收獲を得なかつたのであつたが、頂上の阿夫利神社の境内にて石を轉した所、圖らずも本種の成♀1頭を發見する事が出來たのであつた。他の1頭は頂上より稍下つた所で矢張石をめくつて採集し得たのである。予は最初此の蜘蛛を人家の附近に最も多いカキネグモ Tegenaria corasides Boesenberg et Strand だとばかり思ひ込んで居た。而しそれにしては餘り高所にまで棲んで居る事に不思議を抱いたので、歸宅後よく調べてみた所、意外にも全然別種の上記ヤチグモであつたのである。一見した所極めて兩者は相似て居る。又生態も土地の高下こそあれよく似たものである。而し epigynum の構造が全然違つて居るし、眼の配置や大きさ等も異つて居るから、鏡下に伺





ヤチグモ C. exitialis 🔍 眼の配 置(上)とepigynum (下)

へば直ちに差別し得るものである。 筆を執つた序に以下本種の分布に 就て略説して置きたい。

郷ヤチグモを初めて記載したのは ニユールンベルとの有名な蜘蛛學者 L. Koch氏で、年代は上記學名にも 示した如く1877年である。 其のHolotype 標本は當時日本に在住した事 のあるホン、ローレツツ博士が本邦 にて採集したものであるが、同氏の 原記載に依つてみるも其の産地が果 して日本の何れの地なるやを知る事 が出來ない。而し其の後岸田先生の 御研究の結果本種が東北地方及日光 に産する事が明らかになつて居た。 ヤチグモのヤチとは谷地の意で、其

の棲息地より和名を命じたとの岸田氏の御話である。而し割合に共の採集された幾何が少なかつた様である。彼の有名な Bosenberg と Strand の著書にも、只ヤチグモの名稱のみが掲げられて、標本の持合せが無いと明記されて居る位である。故に小生の知る文献以外に誰もまだ採集して居ないとすれば、大山は今の所本種分布の西限地と云ふべきである。而し予の推測ではまだまだ西方にも分布する事と思ふが、既知の分布地より察して寒地性の蜘蛛ではないかと思はれる。現に予の採集した大山の頂上は海拔1250m.で、2頭の中1頭の方は約 1000m.位の高所であつたと思つて居るが、山麓からは一匹も採集し得なかつた事からでも想像し得る。最近仲辻佛治氏が伊豆三宅島でヤチグモを採集、されたと承つたが、若してれが事實とすれば、小生の推測は聊か不安定な感じ

がしないでもないが。

本邦産 Caelotes 屬の蜘蛛には上記 C. exitialis の他に C. Moellendorffi (Karsch, 1881) 及 C. earaftensis Kishida 1924 の二種がある。前者は九州に 後者は樺太に分布して居る。又 Caras luctuosus イホグモ及び Coras insidiosus シモフリイホグモの二種もヤチグモと同時に L. Koch 氏に依り Caelotes 屬 の新種として發表されたものであるが、今では多くの學者は Caelotes を用ひずに Coras 屬に編入して居る。尚亦 Caelotes を Coelotes と書いた文献が多いやうであるが、これは前者の方が正しいのである。

概量するに當り種々御教示賜つた岸田先生に感謝の意を表する。

(昭和11年5月5日認む。)

Fukui, T.- Something about the mite endoparasitic on pigeon.

ハトの體内に見出したダニ

理學博士 福 井 玉 夫

東京市小石川區原町二七

[昭和十一年五月三十日受領]

學校で形態學の實習にハトの解剖をやらせて居た時、學生の一人戶石あや子さんが材料の心臓、大動脈及びこれと向ひ合つた胸腔内壁に多數の白色小捍状のものを見出してこれは何かと聞きました。見ますとダニ歩蛹で私は初めて見たので大變面白く思つて早速此の類の専門家岸田久吉兄に御尋ねしましたとこ